



ソチ五輪で通訳などの仕事をした榎村真さん。現地で知り合った他国のボランティアらとは、今も交流があるという＝昨年2月、ソチ、榎村さん提供

「語学力だけじゃ務まらない」

神田外語大英米語学科2年の榎村真さん(20)＝千葉県佐倉市＝は昨年、日本で開催された世界卓球で通訳ボランティアとして活動した。これに先立つソチ五輪では、報道機関の依頼を受け、現地で外国選手からコメントを取る仕事もした。

「語学力＝試験の点数」と考え、英語の成績が良ければ通訳もこなせると思っていた。だが、現場は厳しかった。世界卓球では運営スタッフを補助す

世界卓球経験 榎村さん

る役割だったが、ルールに違反する人たちへの対応に悩まされた。撮影エリアを守らない外国人とは、時に言い合いをしながらルールを理解してもらった。「言わないといけない時に尻込みしてはいけない。語学力があっても、使命感がないと務まらないと知った」

日本で行われる東京五輪には、ぜひ参加したい。「通訳ボランティアを目指す友人らに経験を伝える責任もあります」

(木村裕之)

東京五輪へ 外大タッグ

2020年の東京五輪・パラリンピックを見すえて、全国七つの外国語大学が学生やOBを対象に、大会の運営を支える通訳ボランティアの育成に乗り出す。各大学の多様な言語教育を活用し、さまざまな国のアスリートが集う大会の成功を目指す。

計27言語 通訳ボランティア育成

7大学は、神田外語大(千葉市)、関西外国語大(大阪府)、京都外国語大、神戸市外国語大、東京外国語大、長崎外国語大、名古屋外国語大。それぞれの専攻言語を合わせると計27言語になる。

7大学は昨年6月、グローバルな人材を育成するために連携する「全国外大連合憲章」を結んだ。

11月には、800人近くの学生を通訳ボランティアとして、国内外のスポーツ大会に送ってきた神田外語大が、東京五輪などを目指して通訳ボランティアを育てることを提案し、賛同を得た。

幹事大学の神田外語大は今夏、通訳の人材を育成する合同セミナー(有料)を同大で開く。他の6

大学にも開放し、参加しやすいように4日程度の集中講座にする方針だ。東京五輪・パラリンピックに加えて、19年に日本で開催するラグビーW杯なども視野に入れ、貢献できる人材を養成していくという。

セミナーでは、語学力や通訳力の向上を目指すほか、ホテル業界などから講師を招いて外国人向けのマナーなど「おもてなし」講座も用意。パラリンピックを考慮し、障害者支援なども教える予定だ。現役の学生だけでなく、大学の卒業生も受け入れる。同大の担当者は「さまざまな言語を教える各外国語大学が連携すれば、大きな貢献ができる」と話す。